

廃食用油回収で環境保全

三郷の緑のカーテン作りも協力 神戸商店

使用済みのてんぷら油(廃食用油)などの回収・リサイクル事業を通じて環境保全に努めている三郷市の神戸(かんべ)商店(神戸純社長)は二十七日、三郷市で実施される「水と緑の環境フェスタ」に参加、廃油を使ったキャンドル作り体験や、家庭で使用した油の回収などを行う。

廃食用油は、生ごみや稲わらなどにも、再生可能な生物由来の有機性資源「バイオマス」の一つ。バイオマスはエネルギーや工業原料などに利用でき、二酸化炭素(CO₂)の排出が少ない資源として注目されている。

同社は一九六六年五月の創業時から資源の有効利用に着目し、廃食用油の定期回収サービスを展開。大手外食チェーンや大手コンビニチェーン、駅ビル、スーパーなど全国約五千万所から、年間一万トンを回収している。回収した油は再生工場で加

工後、半分以上がタイヤや石けんなど、四割が飼料用、残りは軽油の代替燃料となるバイオディーゼル燃料などに再利用され、還元されている。神戸社長は環境カウンセラーの資格を取るとともに、関東リサイクル油脂事業協同組合の代表理事や三郷市環境審議会委員も務めている。

「環境保全は人類共通の最重要課題」「美しい地球を子孫に受け継ぐため、社員一丸となって環境保全に取り組み、資源循環型社会の構築に貢献することが私たちの使命」と力を込める。



廃食用油の回収に使うパール缶を手にする神戸純社長

二〇〇三年には、廃食用油リサイクル業者として東日本で初めてISO14001(環境マネジメントシステム)の認証を取得。環境問題に対する社員の認識が一層高まり、顧客へのサービス向上にもつながったという。

地域貢献の一つとして、今年三郷市内の小・中学校にゴーヤの苗を寄贈し、省エネやヒートアイランド現象防止に役立つ「緑のカーテン」作りに協力。地域全体での環境活動の高まりに期待を寄せる。

「水と緑の環境フェスタ」では、廃食用油を容器に入れて持参すると石けんと交換する。問い合わせは同社 48(959) 5093、ホームページ <http://www.kambe.co.jp> (三宅芳樹)

各業種の空模様は次の通

埼玉経済

企業、団体商
TEL 048